

大浪池の形成

南九州の霧島連山には、韓国岳と高千穂峰の大きめの山を含む 20 以上の火山があります。これらの火山は何百年、何千年もの間に起こった噴火の数々によって生まれました。そのうちのひとつの大噴火で生まれたクレーターに水がたまってできたのが、大浪池です。

本来は比較的小さな火山でしたが、約 45,000 年前――韓国岳と高千穂峰を含む地域の数々の火山が生まれるより前――に起こった噴火を受け、現在の形になりました。この噴火は、吹き上げられた軽石や火山灰が 50km ほど東にある宮崎平野まで届き、ここで火山噴出物が 20cm も積もるほど、壮大なものでした。

大浪池の火山から流出したマグマはクレーターの周りに蓄積し、現在見られる山の形状となりました。噴火後、クレーターには地下水が溜まり、海拔 1,412m で日本最高峰の火口湖を形成しました。